

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 下関市立栗野小学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	児童2年～6年生： 8名 教職員：7名 【午前の部】保護者・地域の方：40名 【午後の部】近隣の小・中学生：206名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	(1)オリンピックによる運動教室を通して、児童の実技の向上を図る。 (2)オリンピックによる講演や試技を見ることを通して、運動に対する意欲の向上を図る。 (3)運動教室に近隣の小中学生・保護者・地域の方を招き、子どもから高齢者まで幅広い世代の人がスポーツや運動に親しむとともに、運動を通して交流を深めることができる。
5 取組内容	1 保護者・地域、近隣の小中学校と合同の運動教室の実施 講師として、ソウルオリンピック体操銅メダリスト水島宏一氏を招聘し、午前の部・午後の部に分け、以下の2つの運動教室を実施した。 (1) 午前の部：保護者・地域の方との合同運動教室 ①オリンピックによる講演 講師自身の経験を踏まえながら、運動だけに限らず、子どもたちが自身の夢を叶えるための4つのポイントを伝えられた。「好奇心をもち、勇気を出して挑戦し、その取り組みを継続させることで自信となる。」という話から、目標に向かってチャレンジをしてほしいという思いを子どもたちに伝えられた。 ②跳び箱の運動教室 本校児童を対象に、跳び箱の運動教室を行った。跳び箱に対して「痛い、怖い」と苦手意識をもっていた児童であったが、講師の試技を見たり、スモールステップで課題を解決していったりすることで、その苦手意識を克服していった。また、保護者や地域の方の参観もあり、応援の声や褒める声をかけられたことで、児童は意欲的に取り組むことができた。 ③保護者・地域の方を巻き込んだ体ほぐしの運動教室 児童・保護者・地域の方を対象に、自宅でもできる体ほぐしの運動を行

	<p>った。効果の高いストレッチや、家族と一緒にできるストレッチの仕方について教えていただいた。</p> <p>(2) 午後の部：町内5校と合同の運動教室</p> <p>①オリンピックによる講演</p> <p>豊北町内の小中学校が集まり、講演をしていただいた。5・6年生と中学生が主体の話のため、午前の部の話を踏まえつつ、金銭面や引退後の進路など、キャリア教育に関わる内容の話も加えてお話いただいた。</p> <p>②小学生対象のマット運動教室</p> <p>豊北町内の4校の5・6年生を対象に、合同でマット運動教室を行った。講師の模範演技を見て興味・関心を高めたり、友達の実技を見たりしながら、前転・後転・側転の練習を行い、技能を高めていった。</p> <p>2 運動教室の効果を高める事後の学習</p> <p>講師として招いた水島宏一氏が制作に携わった「器械運動アプリ」やNHKの「はりきり体育ノ介」などを授業の中で視聴し、活用した。運動教室の中での指導を振り返りつつ、動画の中の「できるポイント」に注目して、練習を継続している。</p>
6 主な成果	<p>1 オリンピアンによる指導により、「水島先生のようにになりたい」「跳び箱が怖くなくなった」など、器械運動への見方等が変わり、意欲が高まったと言える。また、「教えてもらったことを意識したい」「連続技に挑戦してみたい」など、これからの運動にも目的意識をもてるようになってきている。</p> <p>2 講演を通して、「4つのポイントに気を付けたい」「自信がもてるようにがんばりたい」という意見が多かった。「今のうちに遊びや運動、勉強など色々な経験をして、将来の役に立てたい」という意見もあり、運動だけでなく、自身の将来について前向きに考えることができるようになったと考える。</p> <p>3 地域の方から応援してもらったり、他校の児童の運動の様子を見合ったりすることで、児童の活動意欲につながった。「ほめられたり、励まされたりしてうれしかった。」「友達の動きを見て学びになった」等、集団の中で活動するよさ・楽しさを味わうことができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○ 町内の小学校4校は、今年度をもって統合する。そのため、共通した取組の場を設け、児童間の交流の一助になるようにした。</p> <p>○ オリンピアンを講師に招き、話を聞いたり、実際に試技を見て指導を受けたり、指導後にオリンピックの監修したアプリケーションを活用した。そうすることで、児童の器械運動に対する意識が高まっただけでなく、技能面での向上を図ることができた。</p>
8 主な課題等	<p>○ 今回は跳び箱・マット運動といった器械運動を取り扱い、児童の器械運動や、オリンピックに対する関心・意欲を高めることができた。その一方で、パラリンピック競技への児童の理解についてはまだ不十分である。現時点で、ボッチャの体験や、図書室前の「オリパラコーナー」の設置、給食時間に児童へオリパラに関連するクイズ・読み聞かせ等を行ったが、より強い意識付けの必要を感じている。そのため、教材“i mPOSSIBLE”の活用や、パラアスリートの疑似体験等を通して、パラリンピック種目に関する学習の充実を図りたい。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>○ 今回の事業を一つのきっかけとして、児童が普通の体育や、それ以外の活動においても、意欲的に挑戦していくことを支援していきたい。統合先の小学校においても、引き継いでいってほしい。</p>

